

平成 30 年度 食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

平成 30 年 7 月 12 日(木)、木曾合同庁舎講堂において平成 30 年度長野県食と農業農村振興審議会木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員(五十音順)

奥牧 久子委員(農村生活マイスター協会木曾支部 支部長)
瀬脇 進委員(畜産農家)
高橋 徳委員(木曾農業協同組合 代表理事組合長) 部会長
千村 孝男委員(木曾町観光協会 会長)
長渕 充章委員(木曾地方農業委員会協議会 前会長) 副部会長
原 恵美子委員(木曾どぶろく研究会 副会長)
村上 淳委員(長野県議会議員)

2 欠席委員(五十音順)

木村 恭一委員(木曾町農林振興課 課長)
松井 淳一委員(すんきブランド推進協議会 会長)
湯川 尚子委員(株式会社湯川酒造 代表取締役社長)

3 次第及び議事録

(1) 開会

(2) あいさつ(木曾地域振興局 局長)

(3) 部会成立報告、部会長あいさつ、議事録の公開について確認

(4) 会議事項(高橋部会長進行)

①第 2 期長野県食と農業農村振興計画の取組結果及び平成 29 年度取組実績について(資料 1)

◎村上委員

- ・資料 1 の重点戦略 6 農村資源の活用と災害に強い農村づくりで、農業水利施設を活用した小水力発電の箇所数の H29 年度実績 2 箇所は、計画のままと思うが、実績になるのか。

○事務局

- ・実績の 2 箇所は、王滝村、木曾町である。計画の 3 箇所は上松町、木祖村、王滝村であった。

◎村上委員

- ・資料 1 の重点戦略 2 木曾農業ブランドの「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興で、GAP、イネWCS の用語がでてくるが、計画書の中で解説されているのか。

○事務局

- ・第 3 期長野県食と農業農村振興計画の本冊では、177 ページから用語解説があり、GAP は 185 ページ、イネWCS は 177 ページで解説されている。

◎原委員

- ・第2期計画の目標値と平成29年度実績値がかけ離れているように思う。目標を達成するにはどうするのか、農業後継者不足等の様々な問題があることを踏まえ、都市農村交流人口、御嶽はくさいの出荷量など、目標値を農作物を作る人にやさしく、低く設定したらどうか。

○事務局

- ・重点戦略2の御嶽はくさいと木曾子牛については、第2期計画を立てたときには、現状維持とすることを狙って目標値を設定した。御嶽はくさいは、市場の要望や適正な規模として40万C/Sとした。木曾子牛は、当初は価格が安く、やめていく農家もあったが、ここ最近、価格が上昇し、出荷頭数が増えてきている。計画を立てるときは、出荷頭数を増やす目標値を設定した。
- ・重点戦略4の都市農村交流人口は、H22年の基準年には約25,000人の実績があったので、年に1,000人の増加を目指し、目標年に30,000人とする目標を設定した。実際は、H26年の御嶽山の噴火や、土石流災害の発生、昨年地震によりH29年度実績の数字は18,178人に止まった。目標が高かったと言われればそのとおりであったかもしれない。
- ・重点戦略5の中山間地域農業直接支払、多面的機能支払の面積は、両者に取組んでいただきたいとの思いで同じ面積を目標値とした。中山間地域農業直接支払では、高齢化等により協定維持が難しくなったところがあったこと、多面的機能支払では手続きが煩雑であるなどの課題があって、目標を達成できなかった。第3期計画に向けては現状維持を図りたいと考えている。
- ・多面的機能支払は470haを目標値としたが、これは各町村の目標を聞いたうえで設定したものであるが、地域のリーダー不足のため、地域のまとめ役となる人がいなくて面積が伸びなかった。このため、取組の広域化に取り組むとともに、事務の簡便化を国へ要望していきたい。

②第3期長野県食と農業農村振興及び平成30年度実行計画について(資料2、第3期計画書)

◎村上委員

- ・第3期計画は、いい計画ができた。地区部会冒頭の局長のあいさつで、木曾の産出額が22億円で、これを30億円にという挨拶があったが、計画のどこかに出てくるのか。

○地域振興局長

- ・県計画では、農産物産出額の目標を3,000億円としているが、木曾地区の農業産出額の目標は定めていない。木曾の産出額は横ばいか、むしろ減少傾向である。

◎長渕委員

- ・重点取組5で荒廃農地の解消面積、中山間地域農業直接支払事業の面積がでていますが、荒廃農地の解消40haには、新たに荒廃農地化していく可能性のある農地の解消面積も含むのか。

○事務局

- ・含める。各町村の農業委員会で非農地判定された農地も含める。

◎長渕委員

- ・担い手が少なくなり、荒廃農地の解消もできなくなるのではないかと心配する。中山間地域農業直接支払事業の農地を維持していく取組により、絶対に農地を減らさないようにしてほしい。

○事務局

- ・荒廃農地の解消や中山間地域農業直接支払事業による取組を支援していきたいので、御協力をお願いしたい。

◎村上委員

- ・5年間の計画だが、次の見直しはいつか。4年経過した段階で見直すのか。

○事務局

- ・見直しは、2022年に行う。4年経過した段階で見直し作業を行う。

◎村上会長

- ・目標値については、都市農村交流人口のように達成が難しい状況であればどこかの時点で見直しがあってもいいのではないか。

○事務局

- ・計画期間の途中で下方修正することは難しい。5カ年間の目標は5カ年間のものとして固定するもので、単年度に目標を上回れば柔軟に設定することもできるのではないか。目標を実行するための御意見ををお願いしたい。

◎千村委員

- ・野生鳥獣による被害が増えている。難しい問題である。別荘地では、被害が無ければ家庭菜園として農地を貸し出すことも考えられるが、サル被害を受けてしまい、作る意欲もなくなる。このため荒廃農地が増えているのが現状。40haの解消に向けて取組をお願いしたい。今年初めて、大玉花火の講習会が開催された。野生鳥獣被害防止の効果を期待したい。

○事務局

- ・野生鳥獣による被害により農作物を作る意欲が落ちてしまう。地域振興局では、対策チームを設置して集落リーダーの育成、電気柵の点検・指導などの取組を行っている。要望があれば対策チームが出向き、指導、支援を行う。

③全体討議

◎部会長

- ・重点取組6の生産性を高める農地の条件整備で、814haを目標としているが、高くないか。

○事務局

- ・今まで条件整備に取り組んだ田、畑を含めた面積となっている。

◎原委員

- ・U・Iターン者や都会の若い人に来てもらって、都市と農村の間で人の循環ができれば、地域が活性化して定住・子育てへつながっていくのではないかと心配である。若い世代がいないと、地域の活力がどうなってしまうかと心配である。都市と農村のつながりを強くする取り組みをしてはどうか。移住定住が進んでいけばいい。

○事務局

- ・木曽らしい食材―すんき、ほうば巻など―を使って若い人の交流を増やしていきたい。例えば銀座NAGANOでのイベントや、移住定住フェアにも参加して食文化を伝えることも行っていきたい。また、木曽で農業をしたい人に向けたPRに取り組んでいく。まだ成果が出てはいないが、続けていきたい。
- ・原委員の御意見のとおり、移住定住の増加が行き着くところである。人口減少の中、どう移住定住者を確保していくのか、減っていく若い人の取り合いになっている。若い人の絶対数の他に、支える人も必要である。6町村と連携し、コーディネーターを設置して、農業(職)と定住をセットにした取り組みを行っていくので、御意見をいただきたい。

◎瀬脇委員

- ・ほ場整備は、まだ整備率が低いのか。大桑村では90%位で整備されたように思うが、やっていないところは野生鳥獣による被害を受けやすい。やってほしいところを重点に取り組んでいったらどうか。

○事務局

- ・大桑村では、水田で89.4%、畑で41.5%、合せて68.7%で整備し、整備率は高い。希望あるところから進めていきたい。

◎奥牧委員

- ・計画で謳っていることが、個人の気持ちを動かすに至っていないと思う。そうならないのが歯がゆく、ジレンマを感じる。気持ちを奮い立たせるような取り組みをしたい。

○地域振興局長

- ・若手職員との意見交換を行ったが、地域のリーダーのことが話題となった。現在、高齢の方たちがリーダーを務めているが、いなくなったらどうなってしまうかと心配である。施策を進めるには、リーダー育成が欠かせないと考えている。

◎部会長

- ・計画を実践するのは誰なのか。高齢化、少子化が進み、中山間直接支払、多面的機能支払の各事業も、事務局がいないと取り組みが続かずに止めてしまう。JAでもやれることは取り組むが、行政でも取り組みが進むよう、対策をお願いしたい。

◎長渕委員

- ・野生鳥獣による被害額は、実際のところ増えているのではないかと心配である。これからの取組において、考えていくべきことと思う。

◎部会長

- ・耕作地でなければ、被害額にならない。耕作地が減っているのだから、被害額も減るのかもしれない。
- ・今年の部会は、今回限りだが、各委員にあっては引き続き御意見をいただくよう、お願いしたい。以上で、討議を終了したい。

○事務局

- ・各委員からいただいたご意見は、県審議会へつないでいく。

○地域振興局長

- ・職員と話をする、具体的な考え、アイデアを持っている。中山間地域農業直接支払事業、多面的機能支払事業の制度周知や手続きの簡素化をどうしたらいいのか、水稻カメムシ防除をドローンで検討したとはいうが、どうやればいいのか、元気づくり支援金を使ってはどうかと。各委員にあっては、積極的に御意見をお願いし、本計画を実行していきたい。